フォーレ：レクイエム ニ短調 作品 48

ガブリエル・フォーレ（1845-1924）はフランス近代の作曲家。79 歳と長命で、最晩年まで旺盛に作曲活動を続けていました。同じフランス近代の作曲家であるドビュッシーよりも、世代が少し上に当たります。しなやかな響きに満ちた音楽を綴りました。

「レクイエム」とは「死者のためのミサ曲」のこと。最初に歌われる〈イントロイトゥス（入祭唱)〉が「レクイエム・エテルナム（永遠の安息を)」と始まるので、この通称で呼ばれています。フォーレは 1887 年から 88 年（43 歳）にかけて、《レクイエム》を仕上げています。作曲の契機は 1886 年に父を亡くしたこととも言われますが、はっきりとはしません。作曲中の 1887 年には母の死にも直面しました。初演は 1888 年 1 月に聖マドレーヌ教会で行われます。ある建築家の葬儀に際して演奏されました。平時では非日常の出来事に向けての“Gift”と受け取ることもできます。この「死」というものはこの世に生きるわれわれにとっては大問題です。死んだ後「いま」「ここ」に確かにある存在がどうなるのかは、少なくとも生きている間はわからないのです。人間はわからないことに対して恐怖心を抱きます。しかしここでは「死」を恐れて泣き叫ぶのではなく、あるがままに受け入れる姿勢が静かに描かれました。通例「レクイエム 」では音響的なクライマックスを形成する激しい音楽の〈怒りの日〉を欠いていて、その要素は第 6 曲〈リベラ・メ〉に内包されています。第 2 曲、第 6 曲はバリトン独唱を含み、第 4 曲はソプラノ独唱で歌われます。

成立過程は複雑で、いくつかの段階があります。88 年に行われた初演の編成は弦合奏ではない小人数の弦楽（独奏ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス）とハープ、ティンパニ、オルガンというものでした。ここに新たに作曲した〈オッフェルトリウム〉と以前に手がけた〈リベラ・メ〉が追加され、金管楽器（ホルン 2、トランペット 2、トロンボーン 3）を楽器編成に加えたものが、93 年までに成立した第 2 稿です。原譜は失われたのですが、1980 年代に復元が手がけられました。本日はいくつかある版の中から、合唱曲で知られるイギリスの作曲家、ジョン・ラターが校訂して 1984 年に出版した版が使われます。かつてその使用がほとんどであった 2 管編成のオーケストラによる楽譜は、1900 年になってからおそらく出版者の希望で改編され、フォーレ自身の手によらずに、弟子が作業を行ったものだと考えられています。

（小味渕彦之）